

4週間目

「ほ～ら、弟くん、お姉ちゃんよ♡」

「んふ、おてて振って、しっかりご挨拶できるのね♡ エラいわ♡ もうお姉ちゃんのママミルクで暮らしあじめて、四週間目なのねえ」

「洗脳もすっかり進んじゃって、正義の味方さんだったことなんて、信じられないわあ」「弟くんがとっても素直にいう事効いてくれてお姉ちゃんも嬉しいよ」

「はい、今日は良いものを持ってきたの」

「これが何か、わかるわよね、うふふ、ガラガラよお♡ バブバブ洗脳怪人のお姉ちゃんの洗脳ガラガラ、とっても素敵でしょ？ このガラガラの音を聞きながら、せーし、びゅっびゅしたら、も～っと、あなたのこと、いい子ちゃんに、洗脳できちゃうのよお。もう、二度と正義の味方だったことなんて、思いだせなくなっちゃう。アナタはお姉ちゃんだけの弟くんになっちゃうの♡」

「んふふ、お姉ちゃんがガラガラで鳴らしながら、真っ白なお汁を、アナタから沢山お搾りしながら、いい子に変えてあげるわね」

「ああ、楽しみだわ♡」

「じゃ、お洋服、お姉ちゃんが脱ぎ脱ぎさせてあげるわねえ♪」

「んしょ、んしょっと、ふふ、お洋服脱ぐのも上手ね。裸になつたら、お行儀良く、待つていてね」

「お姉ちゃんも、んんッ、んんんッ♡」

「はあい、アナタの大好きなお姉ちゃんのおっぱいですよー♡ ああ、お姉ちゃんのおっぱい見ただけでだらしない顔でおちんちん勃起させてとってもえらいえらい。ほら、ガラガラでもっといい子になりましょうねー♡」

「それじゃあ、アナタのおちんちんを、すりすりって、パイズリご奉仕してあげる。ガラガラも一緒に鳴らしてあげるからいっぱい洗脳して上げられるわよ」

「あふう、大きな胸で、んしょつ、おちんちんを挟みこんで、むーにゅ、むにゅにゅ♡ ガラガラガラ♡ おっぱいでシコシコされて、幸せそうな顔。イイコイイコ。もつとおちんちん固くして気持ちよくなりましょうねー♡」

「むにゅにゅ、むにゅう♡」

「このそり返った感じ、たまらなくエッチよ♡ アナタもすっかりいい子になつたからご褒美におちんちんだけ大人チンポのガチガチにしてあげたの。うれしいでちゅよねー、お姉ちゃんもとっても嬉しいよ♡」

「ほーら、ガラガラを鳴らしながら、おっぱいで、おちんちんをぱふぱふ、すりすり♡」「すりりッ、すりすりすり♡」

「んふふ、おっぱいの柔らかいのが、先っぽから、竿全体に絡んですっごく気持ちいいでしょ？ くふふ♡」

「気持ちいいのは、やっぱりオチんぽの先の亀さんみたいねえ。じゃあ、アナタの亀さんをパイズリで重点的に、責めてあげる♡」

「すりすりすりりッ♡ すりりッ♡」

「んッ、完全にとろけた顔でイイコイイコ。もつと、とろけてイイコになりましょうねー」

「ガラガラ、すりすり、ガラガラ、すりすり」

「お姉ちゃん以外のことはなくんにも考えないイイコでえらいえらい」

「このまま硬く張ったエラを、いっぱいすりすり、するわねえ」「ん、ん、んツ♡」

「おっぱいを動かすたびに、洗脳ガラガラの音を聞くたびにおちんちんから頭の中までいじられてとろけ顔でびくびくってしてるとつてもカワイイ。先っぽの割れ目から、お汁だらだら、滲ませて♡ すっごくエッチな匂い♡」

「いいのよ、せーし出したくなつたらびゅつびゅつてお姉ちゃんの胸の中に射精しても、もつと気持ちいいところまで我慢してお姉ちゃんの顔に届くまですっごい射精しても、どつちでもいいの。がんばれ、がんばれ♡ ほらほら、おっぱいでふにふに、ガラガラの洗脳でとろとろ、すりすり、ガラガラ、ふにふに、ガラガラ♡」

「いい子な弟くんにはお姉ちゃんがいっぱいいいっぱい気持ちよく洗脳してあげる♡ そういや、アナタが昔こんなふうに抱き合つて寝たことあつたね。ふふふ、もちろんあの頃は私は常識があつたから普通に寝ただけだつたけど……」「ん♡」

「ちっさな頃、こわいお話を聞いたりして、眠れなくなつたとき、お姉ちゃんのお布団の中に潜りこんできたもホントはこんなことしたかったんじゃない?」「はあ、はあ、はあつ♡」

「はじめは怖い怖いって言って、お姉ちゃんの腰に、ぎゅうって、しがみついてるんだけど……少し落ち着いてきたら、そのまま、お姉ちゃんのお胸に手を伸ばってきて、おっぱいの間にこぼつて顔を埋めちゃつて……」

「んふふ、お姉ちゃんのおっぱいを、一晩中、揉みもみしちゃって……フー、ンフー♡⋮」

「あのときは、お姉ちゃん、母性本能をすっごく刺激されたのよ。可愛いって思ってたアナタのこと、ますます可愛くなっちゃって、自分を押さえるのが、大変だったのよお、んふふ♡ あんツ、もう要らない昔のことよりも今のおちんちんよね。お猿さんみたいに腰を振って、赤ちゃんみたいに乳首にむしゃぶりついてとってもいい子」

「もう、常識とか周りとか立場とか気にしないでいいの、お姉ちゃんの体で好きなように気持ちよくなつていいのよ。いい子な弟くんにはもつとお姉ちゃんが気持ちいいことしてあげる♡」

「おっぱいをタマタマの入った袋に、ぎゅうううって押しあてて、くすぐるみたいに、擦つてあげるわよ。んふ、タマタマをこゝすこす、こゝすこす♡」

「こそばゆくって、結構、感じちゃうでしょ。忘れてるかもしれないけど、アナタ、小さな頃から、お姉ちゃんに玉袋を触られたり、揉みもみされるの大好きだったのよ」

「んふ、だから、ほら、こゝすこす、こゝすこす♡ あん、ますます硬くなつて、おちんちん、ぎゅんつて反っちゃつて。うふ、凶悪ショタチンポさんね♡」

「まだまだ速く、激しくしちゃうわねえ。こすこすこすこす♡」

「どう？ お姉ちゃんのおっぱいは？ 先っぽからお汁が滲んで、お顔も切なそう♡ こすこすこす♡ 頭の中、お姉ちゃんのおっぱいと気持ちいいおちんちんのことだけになつてるので頑張つてるでちゅね。いいこいいこ。とってもいいこでちゅよ♡」

「ハツ、ハア♡ おちんちんの先っぽが膨らんで出すの？ 射精しちゃうんでちゅか？」

「お姉ちゃんの身体全体を使って、おちんちんに、大きくパイズリしてあげる」

「んしょっ、ほら大きく膨らんだおっぱいを勃起チンポに絡めて、んしょっ、んしょっ
ガラガラ♡ あは♡ お姉ちゃんもドキドキが止まらなくなつてミルク止まらない」
「おちんちんにかかるてぬるぬるチンポ気持ちいいよね。お姉ちゃんのミルクだいしゅき
でちゅからね♡ ほらほらほら、むにむにでいっぱいシコシコして、おっぱいの柔らか
いのが吸いついて、オチンポの敏感などころ、思い切り擦りたてて、今にも爆発しちゃい
そうよねえ♡」

「にゅるにゅる、ガラガラ♡」

「んふふ、ショタおちんちんがビクビク震えて、中からどろどろの濃いせーし、いゝっぱ
い射精しちゃいましょうね」

「にゅるにゅるツ♡ ガラガラ♡」

「狭いオチンポの管が内から、ぐいぐいって、押し拡げられて、もう今にも、びゅぐ
びゅぐびゅぐううーっ、つて。アナタのミルクせーえき射精ちましようね♡」

「ほらあ、出して♡」

「お姉ちゃんのミルクおっぱいで、気持ち良く、お射精でちゅよ♡ 热々のトロトロの弟
くんのザーメン。いい子でえっちなザーメンミルク♡ お姉ちゃんにびゅっびゅしましょ
うね♡」

「出して、出して、お姉ちゃんのパイズリで♡」

「洗脳されながら、いい子になりながら、お姉ちゃんのために真っ白いどろどろザーメン
いっぱい射精でちゅよー♡」

「びゅつびゅつびゅ～♡ びゅるる～♡」
「びゅつるうう～♡」

「あんッ、で、出てる、おちんちんの先から、いっぱい精液出して、んう、んぶッ、んぶ
ぶうーッ♡ 白くて、トロトロした、熱いの…… 頬にいっぱい掛かって、あ、あはあ、あ
はあーッ、お姉ちゃん、弟くんザーメン、顔にぶつ掛け射精されて、き、気も良くなつ
ひやつて……」

「あ、あーッ、ああーッ♡ はあ、はあ♡…… ん♡」

「とっても濃くてえっちでお姉ちゃんもイッちゃつた」

「んちゅ♡ 頑張りましたね～、えらいえらい。とってもいい子になつてくれてお姉ちゃん
うれしい。んふ、満足そうな顔。とろけて全部お姉ちゃんに出し切つてなんにも考
てないとってもいい子な顔。ミルク全部出しちやつたらミルクをあげないといけないで
ちゅね」

「ほら、アナタの大好きなお姉ちゃんのおっぱい。洗脳ミルクとセーしまみれで美味しそ
うでしょ？ ん、ちゅぱつ♡」

「むしやぶりついて、ミルクを吸つてまたおちんちんをおっぱいしましうね。あん、あ
んッ、そうよ♡ 強く♡ ぢゅるるる、ぢゅるうーッ♡ つて、吸つてとってもえらいえ
らいでちゅよ」

「あらあら、もうおちんちんおおきくしちゃつてますねー♡」

「んあ、んああ♡……じゃあ、おっぱい吸つてもらつてる間、お姉ちゃんのあまあま手コキで、いっぱい出しましようね……お姉ちゃんは弟くんのことは全部知つてるのよ」「カリの敏感なところをお姉ちゃんの指で、しゅっしゅっしゅ♡ つてされるのが大好きなどころとか」

「んふ、いい声、あまーい声でとつてもカワイイわ」

「もつとお姉ちゃんに聞かせて、んふ、しゅしゅしゅしゅ♡」

「先っぽビクついて、今出したばっかりなのに、もうカチカチ。えらいえらい。とつてもいい子な弟くんにはご褒美にもつとしこしこしてあげる」

「好きなときには射精しちゃつていいんちゅよー」

「ほら、しゅしゅしゅしゅしゅ♡」

「だんだん速くしていくわね♡」

「んふ、おちんちんから、先走りのお汁がだらだら溢れて、しゅしゅしゅしゅしゅ♡ んふ、止まらないわねえ♡ 出しちゃうの？ いいわ、いっぱい頑張ったもんね」「お姉ちゃんのおててに、ほらあ、出して♡ 出してえ♡」「できたばっかりの新鮮な弟ザーメン、いーっぱいどっぴゅどっぴゅつれえ♡」「どっぴゅらせてえーっ♡ それえーっ♡♡」

「あんんツ、また濃いいおせーし、いっぱい噴き上がつて、お姉ちゃんのおてての中でぶっぶぶっぶ可愛く射精してる♡ あはあ、お姉ちゃんのため腰をへこへこ浮かせてこんなに射精してくれたの嬉しい」

「ちゅっぽ、お姉ちゃんのミルクいっぱい飲んでもつといっぱい気持ちよくなつていいのよ。もう、それだけでいいの。お姉ちゃんの体で、お姉ちゃんのことだけ感じていいコでいようね」

「それじゃあご褒美に、お姉ちゃんのなが〜い舌で、身体中、舐めなめしてあげるわね。お姉ちゃんの改造してもらった舌、にゅるにゅるざらざらして、アナタも大好きよね」

「んれろ、れろお、それじゃあ、最初はおちんちんから。もちろんガラガラも振りふりして、お姉ちゃんに舐められながら、いい子ちゃんになつてね。」

「先っぽにくるるつて、巻きつけて、少し縮めつけながら、れろ、れろろ、んじゅる、れろろろお。れろろ、れろお、たまたまのあたりも、んじゅれろ、れろろお。」

「あふ、あふう、じゅぶれろ、れろお、また勃起して、これ以上舐めたら、お射精確実ねえ、んふふ、じやあ、いいコな弟くんにはお尻をたくさん舐めてあげるわね」

「んふ、この間ので、だいぶ後ろのほうも良くなつてきてるわよね」

「いいのよお尻で感じてくれるのとつてもおねちゃん嬉しいわ。ん、じゅる、んじゅぶ、じゅぶぶう、ほら、前よりもお尻の奥に、舌がずぶぶつれえ、入つれいつてるわよお。」
「前は入り口を広げたから、今日はもつと気持ちよくなれる前立腺の後ろを、んじゅるる、れろお、れろろ、れろるうう。」

「いっぱいコスコスしてあげる。んぶう、んううう、いいでしょ？ いいでしょ？ 声も我慢せずに気持ちよくあえいでいいのよ。精液がかつてに溢れて、先っぽから、だらだらつれ、ところてん射精、しひやつてての、わかるかしら、じゅぶじゅぶ、んじゅる。」
「お姉ちゃん好みのとつてもいいコに育つてうれしい。あへ声出しながら、視線が虚ろになつちやつてるもの」

「んふ、前立腺責めからのお射精、気持ち良かつたでしょ？」

「まあまあ、体がミルクと精液といろんな体液でぐちゃぐちゃ。大丈夫、お姉ちゃんがきれいにしてあげるね。じゅるり。おてての指をれろ、れろろお、れるれろお♡」

「んふ、次は足の指もれる、れろろ、れるれろツ♡」
「我慢しなくていいのよ。カワイイ喘ぎ声でもどろつどろの精液でも遠慮なく出しちゃつて。全部お姉ちゃんがきれいにしてあげる。ほら、おへそも、れろ、れろろお、んちゅれろツ♡」

「身体中、お姉ちゃんが舐めていないところがないぐらい、れろれろしてあげる♡ もう、中も外もどろどろね。でも、まだ残つてたところがあるよね」

「ふー、こーこー」

「じゃあ、お待ちかねの、お耳ちゅばちゅばよ♡」

「まずは左のお耳の穴を、ながーい舌で奥まで♡」

「ぢゅぱツ、んぢゅぶ、ぢゅぶちゅぼ、んぢゅるるツ、アナタの蕩けたお顔、可愛い♡」
「いいのよ、もつと、お姉ちゃんの耳舐めに集中して、たくさん感じて♡ そのままベロを、どんどん奥まで、入れちゃうわね♡」

「ぢゅぶ、ぢゅぶぶツ、んぢゅぶう、この奥までなめなめしてあげるの大好きだよね。んれろ、じゅるる、ちゅぶ、ちゅばちゅぼツ♡」

「このまま右の耳も、奥まで♡」

「ぢゅばじゅぶ、んじゅば、ぢゅうう、んぢゅるる♡ ちゅぶちゅぶツ、んぢゅぶツ、んちゅぼちゅぶ♡ 怪人さんのながーい舌で、奥の奥まれえ、きれいに真っ白にしてあげる」

「ぢゅぶ、んぢゅぶツ、んぢゅぶぶうーツ♡」

「まだまだ潜っていくわ♡ ちゅばツ、じゅる、んじゅる、ちゅばちゅば♡ お耳の穴がお姉ちゃんの舌の形に変わっちゃうぐらい、いっぱいお耳の底までベロでピストンしてあげる♡」

「ぢゅぶ、ぢゅばじゅぶ、ぢゅぶぢゅぶ♡」

「はふ、はふう、お耳を舌でいっぱい貫かれて、とっても気持ち良くなつたでしょ？ んふ、声も出せないぐらい、アヘとろけひやつてゐみたいね♡ いっぱい気持ち良くなれたご褒美に、お姉ちゃんとベロチューしましよう♡」

「んちゅぶ、ちゅ、んちゅう♡」

「ほらあ、喉の奥まで、お姉ちゃんのベロれえ、じゅぶじゅぶして、弟くんのお口マンコ、犯してあげる♡ んぢゅぼ、ぢゅぼ、ぢゅぼじゅぼ、んぢゅぼ♡ あふ、んふ……」うやつて、可愛がるほどに、お姉ちゃん、どんどんアナタに夢中になつちゃう♡」

「お姉ちゃんのことしか考えられないとつてもいいコになつてくれてほんとに嬉しいわさ、お姉ちゃんのおっぱい、見て。興奮して、ミルクがいっぱい貯まつてゐる♡」
「このエツチな洗脳ミルク、アナタに飲んでほしいの♡ んふう、アナタに跨がつて、あはあ、あはあ……おちんちん、中に全部、ずるるつて、入つちゃつたあ♡」
「このままお姉ちゃんの中に好きなだけ出して、おっぱいミルク、たくさん召し上がれ、ほうら、どうぞお♡ アナタの大好きなおっぱいプレスよ。おっぱいで窒息するほど押しつぶされて、ミルクで溺れるの大好きだもんね。んつふ♡ 必死におっぱいにしゃぶりついてミルクおねだりしてゐるわかるわ。とつてもいいこ」

「ミルク飲むたびにおちんちんビクビクさせてえらいわねー。もう、おっぱいとおちんちんのことだけしか頭にないのね。とつてもいいコ。いいのよ、腰を情けなくピストンせんだけでもアナタはお姉ちゃんの弟なんだから、それでいいの」

「お姉ちゃんのとろとろあまーいミルクをいっぱい飲んで、お姉ちゃんの中にどろどろのミルク精液びゅっびゅって吐き出すことだけ考えていればいいの」

「ほらもっと飲んで、飲んで」

「頭の中まで真っ白になつていいの。お姉ちゃんの大好きなアナタのせーしいいっぱいオマンコに注いで気持ちよくなつていいの。勃起チンポおっ立てカワイイ喘ぎ声上げてセックスしよ。ずっとずっと、ここで交わつてるだけで幸せでしょ?」

「出して、出して、空っぽになるまでせーし射精するの。とってもいいコでえらいえらい。なくなつたら、お姉ちゃんのミルクでお腹いっぱいになるまで補充して、おちんちんから精液出すだけの考えていいの。まだまだ、出せるよね。とってもえらいわ。アナタはお姉ちゃんの可愛くていい子で大切な弟」

「あは、あはあ♡ おちんぽ突く速さが早くなつた♡」

「必死になつて腰振つてお姉ちゃんも嬉しい。いっぱいいっぱいアナタの精液頂戴。ん♡3回連続でもとつても熱くて濃いザーメン。いいコでちゅねー。とってもいいコ。はあ、はあ♡……んあ♡……ふう、ん?……またいっぱいミルクほしいのね。いいよ。いっぱい飲んでいっぱい出して」

「もうすっかり、うつろでお姉ちゃんのことしか見えていないきれいな目になつちゃね。これでアナタはほんとうの弟くん。ふふふ。正義の味方なんでもう思い出しもしないの。幸せでしょ。ずっとずっと、お姉ちゃんがそばにいてあげる」

「今日はお疲れ様、ゆくつくり休んでね♡ んふふ♡」

エピローグ

「あら、起きちゃった？ ふふ、かわいい。はい、お姉ちゃんのおっぱいよ。アナタの大好きなあまーいところとところの洗脳ミルク。んふう、いつものようにいっぱい飲んで嫌なこと全部忘れてお姉ちゃんと暮らしていきましょう」

「いいの、今みたいにアナタは何にも考えなくて。世界の平和も、正義の味方も、もうぜーんぶ関係ないの。赤ちゃんみたいにミルクを飲んで、あは、おちんちんがおっきしたらお姉ちゃんでヌいて、とろけるように眠りましょう」

「今日は、お手々がいい？ それともお口？ あー、アナタの大好きなおっぱいで挟んでしゅっしゅしてあげようか」

「ずっと、ずっと、お姉ちゃんと一緒にいようね」